

## 文章の表現I

## 各論 11 文章表現のポイント (4) 意見を発表したい時

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 意見の文章を書くための準備と形式

### 1 意見を書くための準備

自分の素朴な感情 (好き嫌い) や利害から出発してかまわないが、明確な主題のある独創的な文章にするには、自分なりの掘り下げた理解を持ち、それを演出する必要がある。

- ふだんからの情報収集 (授業、友人、マスメディアなど)
- 自己省察 (日記など)

通常、何らかの**主題**をひとつ提示して、それについての**問題点** (これは複数でもよい) を指摘したうえで、具体例 (複数あることがのぞましい) をとりあげて説明・議論して、**結論**を示す。

説得を目的としない場合は、読者の意見を変えられなくてもよい。むしろ、自分の意見やそれを支える根拠となる事実や考えかたを知ってもらうことが重要である。

### 2 形式

- 頭括法: 結論 → 説明
- 尾括法: 説明 → 結論
- 双括法: 結論 → 説明 → 結論
- 追歩法: 時間順 (ふつうは古→新)、あるいは空間的な配列にしたがって説明
- 散開法: 一見、何の順序によるのかわからない並べかた

文章全体としての形式のほか、各セクションを組み立てるのにも使える。

- 書き始めと書き終わりのパターンをいろいろ覚えておくとうい
- 文体の統一

### 3 レポートの主題の選択について

段落4-6個ということは、主張を4-6個ならべてひとつのレポートを構成するということなので、大したことは書けない。自分のえらんだキーワードについて何を書くかを、かなり小さいところまで絞る必要がある。

### 3.1 ボトムアップ法

こまかいところからつくりはじめ、それらをあとからまとめる方法。KJ法 (川喜田 1967, 1970; 大岩 n.d.) など。

- カード (古紙を切ったものなどでよい) を用意する
- 思いついたことをカードに書く
- 全部並べて一覧し、**直感にしたがって** 「似ている」カードをまとめる (いわゆる「カルタ取り」)
- 各グループに、その特徴を表す「ラベル」をつける
- 紙の上に図解する、文章を書くなど

### 3.2 トップダウン法

- 文章や発表の構成を大きな紙に書く
- アウトラインプロセッサ

### 3.3 混合方式

マインドマップ (月刊ビジネスアスキー編集部 2010; マインドマップの学校 n.d.) など

- 大きな紙と色ペンを多数用意する
- 中央にテーマをあらわす絵を描く
- そこから周囲に「ブランチ」(branch: 枝) を伸ばし、それに表題をつける
- ブランチを枝分かれさせながら、思いついたことを書いていく
- ことばで書いてもよいが、図や絵を使い、視覚的・色彩的に描くのがよい

## 4 参考文献

- 大岩元 (n.d.) 「カード操作による発想法」． <<https://crew-lab.sfc.keio.ac.jp/kj.html>>
- 川喜田二郎 (1967) 『発想法: 創造性開発のために』 (中公新書) 中央公論社.
- 川喜田二郎 (1970) 『続・発想法: KJ法の展開と応用』 (中公新書) 中央公論社.
- 月刊ビジネスアスキー編集部 (2010) 『本当に頭がよくなるマインドマップ ”かき方” 超入門』 アスキー・メディアワークス.
- 佐藤望 ほか (2020) 『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』 (第3版) 慶應義塾大学出版会.
- マインドマップの学校 (n.d.) 「マインドマップはなぜ役立つ?」． <<https://www.mindmap-school.jp/mindmap/why/>>